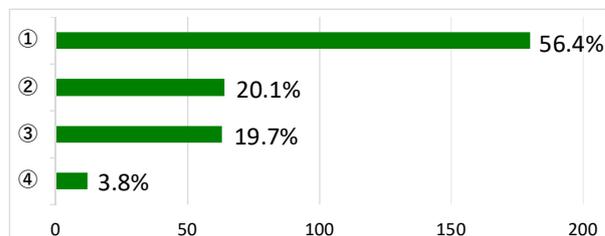


令和6年度 就職慣行等に関するアンケート調査（企業）①

【調査概要】

- ◆対象企業 : 令和6年度に高校生の募集を行った企業のうち842社を抽出
- ◆回答数 : 319社
- ◆調査方法 : WEBアンケート調査

「一人一社制」についてどのように考えるか	
① 現行の制度のままで良い	180人
② 初めから2社応募できた方が良い	64人
③ 9月中から卒業まで制限無く応募できた方が良い	63人
④ その他	12人



- ・①の現行の一人一社制を支持する意見が56.4%、②・③の複数応募を支持する意見は合わせて全体の39.8%となりました。
- ・その他の回答には、「条件付きで当初からの複数応募を認める」、「現行制度のままで良いが企業を知る機会を増やしてもらいたい」、「高卒採用が初めてのためどちらとも言えない」など、様々ご意見を記載いただきました。

◆下記に、いただきましたご意見から一部を引用して記載しております。

① 選択理由

〈メリット〉

- ・一部の企業に応募が集中しないため、企業、生徒ともに安定して就職・採用活動が可能となる。
- ・第一希望である事が明確であり、内定辞退が発生しにくいシステムのため、安心して採用を考えることができる。
- ・複数応募を可能にすることで倍率が上がり、1回目の選考で不合格者が増え就職活動が長期化してしまうため、一人一社制のままで良い。
- ・学業を続けながらの就職活動は、学業に影響が出ると思う。仕事をする上でも学校で身につけた知識や経験が大事だと考える。

〈デメリット〉

- ・希望企業を1つに絞る難しさや、落選時の影響が大きいこと。（さらに選択肢が絞られるため。）
- ・生徒側が不採用となった場合、そこから再度選考に進む必要があるため精神的な負担が大きい。
- ・就職先を決める期間が短く、企業を知る機会が限られ、結果として早期離職につながる可能性がある。

② 選択理由

〈メリット〉

- ・1社に絞り切れない生徒には複数応募可能な方が安心感がある。企業にとっても応募者が増え選択肢が広がる。
- ・制限をなくすのではなく、2～3社にすることで、生徒が企業を選ぶ際に悩みすぎることなく、学校側の負担も少なく済む。
- ・無制限とするよりも2社に制限する方が、知名度の低い企業と高い企業間の応募人数の隔たりは埋まるものとする。

〈デメリット〉

- ・生徒間で内定獲得数に格差が生じる。企業側も選択肢は広がる反面、採用期間が長期化する。
- ・2社応募になった程度ではミスマッチが減るとは言い難い。一方で無制限にすると、就職活動期間がいつまでも延びてしまう。

③ 選択理由

〈メリット〉

- ・複数の企業に接することで生徒の視野が広がり、入社後のミスマッチを減らすことができる。面接によって気づく点も多いため。
- ・生徒にとって、1社に絞り込むことで不採用になった時の精神的負担が大きいと思われ、その負担軽減になる。
- ・生徒が色々な企業を見て選択できる。企業側も選択肢の1つとして見てもらいたい。

〈デメリット〉

- ・生徒にとっては学業がある中で企業研究や就職活動にかけられる時間は少ない。
- ・「とりあえず内定をもらっておく」生徒が増えた場合、内定承諾後により良い条件の企業へ流れてしまうリスクが高まる。

④ その他

- ・一人一社制の見直しについては、前提として生徒の就職リテラシーを向上させる必要があり教育制度そのものから変える必要がある。
- ・10月以降応募可能な企業数について制限がない方が良い。
- ・一人一社制のままで良いが、職場見学する企業数を2～3社にしてもらいたい。生徒と企業の双方にとって選択肢が広がる。
- ・高卒採用が初めてのためどちらとも言えない。